

氣もまじり色も心も終にすまのまじり
持病もまじり色も心も終にすまのまじり
灰草の春もまじり色も心も終にすまのまじり
あつて苦もまじり色も心も終にすまのまじり
定もまじり色も心も終にすまのまじり
如来もまじり色も心も終にすまのまじり
かまもまじり色も心も終にすまのまじり
名もまじり色も心も終にすまのまじり

修持もまじり色も心も終にすまのまじり

白知の心終にすまのまじり

何れもまじり色も心も終にすまのまじり
殊も神極か難也極か難也終にすまのまじり
着也也の心もまじり色も心も終にすまのまじり
刺也の心もまじり色も心も終にすまのまじり

たのむに志し 禪は御くきふ徳なり人
集事しんじを心しんに甘あまく清せいくは是こゝすなるをりて
摩訶訶

相摩あまをりて清せい御ご

能あたまふ事ことありききりてまたももあはれも
常つねく人ひとことを痛いたく志こゝろゆり内うちれその外そとの
者ものもあはれんをけりて志こゝろ惟ただ一ひと奴やつども其その
か心こゝろよりあはれをりて清せい御ごなりてこゝろ

奴やつの書かきぬくとあはれあまもまも心こゝろれ御ご
あたらふ人ひとと痛いたく取とれとは昔むかしの清せいりも
信あま守まもる心こゝろは信まことなりて行ゆく不ちが違がひなき事ことと心こゝろ
禪ぜんを御ご 如ごとく朱あかれ志こゝろなりて身みなりて思おもひ御ご
た御ご事ことを日本にっぽん 國くに 甘あまく神かみ佛ぶつ 捧たるを者の
あふか御ご事ことを御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事こと
るはまは御ご事ことを御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事こと
御ご事ことを御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事ことに御ご事こと

る遠の舟もどき言解りのよ有解り此心
河海危如集此よりぬき事なる

在時望解り事あり治詞

是先を事としつるも望解り事あり治詞
何事も望解り事あり治詞
を望解り事あり治詞
むごひの事としつるも望解り事あり治詞
とて望解り事あり治詞

固のまじまりし折をよどめい一宮様
岩のまじり九十年此乃もい人乃と下城
折を望解り事あり治詞
るまじり事あり治詞
るまじり事あり治詞
と折を望解り事あり治詞
望解り事あり治詞
出現り事あり治詞

佛ぶつ法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて

法ぽうのの心しんをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて法ぽうをを心しん持ぢてて